

第10回（令和5年度）澤柳記念 DEI 賞

受賞課題

A賞：澤柳記念 DEI 賞 1件

課題名 科学技術・教育分野のジェンダー平等推進

受賞者 山形大学学術研究院 河野 銀子 氏

受賞理由 教育社会学を専門とする河野銀子氏は、女性が少ない分野の現状把握・要因分析によるジェンダー平等を推進するための先駆的な基礎的研究を多分野の多彩な研究者と協働して行う。量的手法と質的手法を組み合わせるミックスメソッドにより、特に女性校長、女性学長、女性研究者のキャリア形成の実態とその困難および超克を描き出し、実践的な改善策を提示している。このように男女共同参画、DEIの分野の専門家として調査とエビデンスに基づいた実証的な研究実績を十分に重ねるのみならず、それに基づいた実践的な解決策を氏は出版、講演、メディアを通して社会に発信している。日本がOECD加盟国の中で科学技術・教育分野のジェンダーギャップが大きい国であり、世界経済フォーラムによるジェンダーギャップ指数で日本は125位とワースト記録を更新しその要因として高等教育におけるジェンダーギャップが指摘されているとき、四半世紀にわたり大学のジェンダーギャップの課題を追求する氏の研究は真に大きな意義を持つ。こういった氏の研究の成果は本務校の山形大学や近隣大学における教育にも十二分に活かされ、その研究を基にして大学運営にも長年にわたり堅実な貢献を果たしてきた。さらに市県レベルのみならず国レベルでの実証的な研究に基づいての政策立案等にも幾度も寄与しその貢献は大である。そして国際的にも国連大学、アメリカやイギリスの教育学会、国際会議Gender Summit、STEMの女性リーダーサミット等で発信を重ねている。このように研究、教育、大学運営、県レベルでの社会貢献、国レベルの政策への貢献、国際社会での発信といった各観点に於いて大きな実績を有し、以てジェンダー平等とDEIを強く推進する河野銀子氏はまことに本賞に相応しく、ここに顕彰する。

B賞：澤柳記念 DEI 奨励賞 2件

課題名 周作人の女性解放運動の体系化に向けた研究
——生涯にわたる言論運動とそれを支えた国際的知見の所在——

受賞者 東北大学大学院国際文化研究科 博士課程後期 張 蕊 氏

受賞理由 近代中国の代表的文筆家・周作人が生涯にわたって取り組んだ女性解放運動の全体像を極めて体系的・網羅的に考究する。それは、日本よりも格段に早く DEI 推進や男女共同参画が論じられた中国という視座や、日本留学した周作人に影響を与えた西洋化された日本や欧米の思想家という視座も有した、壮大でグローバル且つ緻密で実証的な歴史学研究であり大きな意義を有する。

現在の日本社会で男女共同参画やDEIを考えそれを確実に推進・実現するにあたって、過去の人々や社会の実相を知りそれを踏まえることが求められるとき、その基盤としてアカデミアから社会への具体的で大きな影響源として本研究のような優れた歴史学的研究は必須である。実際、周作人の運動が1950年の中華人民共和国婚姻法の条文に反映されていると本研究は指摘する。また周作人が清代、中華民国時代、満州国時代・日中戦争時代、そして中華人民共和国時代という社会の大激変を生き抜きつつも女性解放運動を応変させて貫徹したことは、激動する現代社会でのDEI活動に大きな示唆を与える。

ゆえにこの汗牛充棟たる史料に取り組んだ濃密で重いアカデミックな研究成果は、まさに東北大学の澤柳記念 DEI 奨励賞に相応しい。本賞受賞が今後のさらに長く重い研究を重ねていく励みとなることを期待する。周作人が本学と縁のある魯迅の弟であったことも趣深い。これらの功績は顕著でありここに顕彰し、今後の一層の活躍を期待する。

課題名 セクシュアルマイノリティへの理解促進および当事者の居場所づくり

受賞者 北海道大 LGBTQ+サークル虹の集い

受賞理由 2016年に設立され2019年からは北海道大学公認の学生主体のサークルとして、LGBTQ+に関する例会「つどい」や映画上映会、トークイベント、講演会、親睦会、さらにはオンラインの利点を活かした例会など、質の高い啓蒙活動を極めて精力的に定期的に繰り広げている。

学生によるこの先進的な取り組みは、所属する北海道大学の枠を超えてその外にも展開して、自治体や高校、その他の団体と連携しながらオンラインやメディアによる紹介をも通じてその活動範囲を北海道内外や海外在留者にも広げ、その対象も日本の大学生だけでなくアメリカの大学生、在札幌米国総領事や高校生、教員なども交える。こういった交流・啓蒙活動の社会的意義は大変に大きい。

DEI 推進に関するこのような極めて多彩で且つ親しみやすい、波及効果とインパクトの大きいこの活動が今後も継続し、更なる企業や他大学との協働等の展開をも遂げることに大きな期待を抱く。これらの功績は顕著でありここに顕彰し、今後の一層の活躍を期待する。